

平成15年9月26日
青森統計・情報センター発表

平成15(2003)年産水稻の作付面積及び作柄概況 (青森) (9月15日現在)

水稻作柄概況調査(9月15日現在)は、それぞれの生育段階に応じて、穂数、もみ数及び登熟状況のうち計測可能なものを実測し、それ以外の収量構成要素は、過去の調査結果と調査時点までの気象データ等により推定し、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行っています。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがあります。

【調査結果の概要】

- 平成15年産水稻の作付面積(青刈り面積控除前)は5万2,200haで、前年産に比べて1,500ha(3%)減少した。
- 10a当たり収量は415kg(対前年比73%)で作況指数71と見込まれる。

図1 地帯別作柄概況(参考)

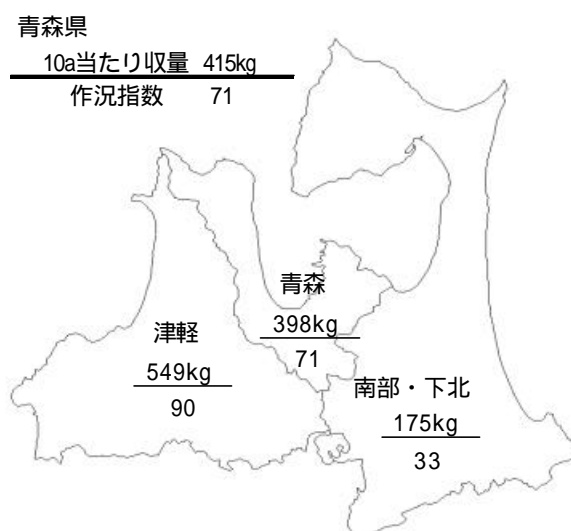


表 水稻の作付面積及び作柄概況(9月15日現在)

区分	作付面積 (青刈り面積 控除前)	穂数の 多少	1穂もみ数 の多少 (平年比較)	全もみ数 の多少	登熟の 良否	10a当たり 収量	作況指数
青森県	52 200 ha	やや多い	少ない	少ない	不良	415 kg	71
(参考)							
青森地帯	4 320	平年並み	少ない	少ない	不良	398	71
津軽地帯	31 000	多い	少ない	少ない	やや不良	549	90
南部・下北地帯	16 900	平年並み	少ない	少ない	不良	175	33

注:1 作付面積の計と内訳が一致しないのはラウンドのためである。
2 10a当たり収量は、1.70mm幅以上の玄米重である。
3 青刈り面積については、確定していない。

【解 説】

- 1 本年の水稻作付面積（青刈り面積控除前）は5万2,200haで、前年に比べて1,500ha(3%)減少した。これは、主に宅地・道路用地等への農地転用により田耕地が減少したことや、生産調整の拡大に伴い大豆、麦等へ転換されたことによる。なお、青刈り面積については確定していない。
- 2 田植後の生育は、5月下旬から6月中旬までの天候がおおむね平年並みに経過し、初期生育は良好だったものの、6月下旬からは低温・日照不足の天候が続き生育は緩慢となり、出穂最盛期は県平均で平年に比べて6日遅い8月13日で穂揃いは「やや不良」となった。
- 3 穂数は、弱小茎の枯れ上がりが少なかったことから「やや多い」となった。
1穂当たりもみ数は、幼穂形成期・減数分裂期の低温・日照不足により「少ない」となった。このため全もみ数は「少ない」となった。
- 4 登熟は、穂ばらみ期から出穂開花期の低温・日照不足により開花受精が阻害され、不稔もみが多く発生し、また、出穂期の遅れやいもち病の発生により粒の肥大及び充実は抑制されることが見込まれることから、「不良」が見込まれる。
- 5 以上のことから9月15日現在における作柄は、10a当たり収量は415kg、作況指数71が見込まれる。

作柄表示地帯別には青森地帯が作況指数71、津軽地帯が作況指数90、南部・下北地帯が作況指数33と見込まれる。

なお、水稻の全もみ数及び不稔歩合の状況をみると1㎡当たり全もみ数は174～518百粒、不稔歩合は2～97%となっており、各地帯においても地域間、ほ場間の差が大きくみられる。

【参 考】

(参考1) 青森県における水稻の全もみ数及び不稔歩合の状況(9月15日現在)

区 分	1㎡当たり 全もみ数 (最小値～最大値)		平 均	1㎡当たり 全もみ数 平年値		不稔歩合 (最小値～最大値)		平 均	不稔歩合 過去5か年 平均値
青 森 県	174	～ 518	100粒	317	100粒	2	～ 97	29	8
青 森 地 帯	228	～ 393	100粒	311	100粒	7	～ 61	26	9
津 軽 地 帯	218	～ 518	100粒	326	100粒	2	～ 42	16	6
南 部・下 北 地 帯	174	～ 422	100粒	303	100粒	10	～ 97	49	11

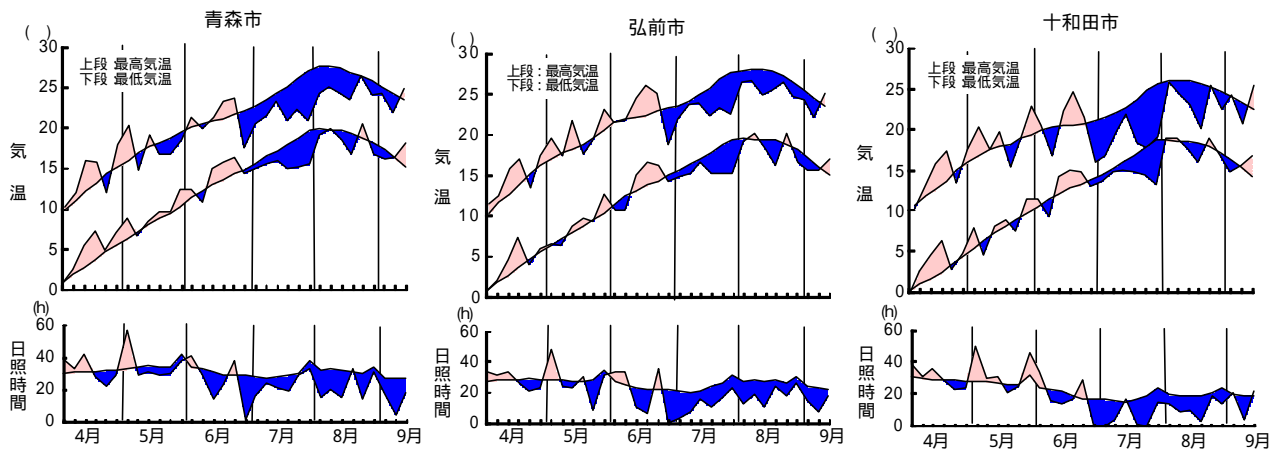
注：不稔歩合については、作況標本筆における稔実もみ数調査の結果である。

(参考2) 品種別不稔歩合の状況

品 種 名	つがるロマン	ゆめあかり	むつほまれ
平均不稔歩合(%)	20	39	30

（参考3）

図2 平成15年半旬別気象図



資料：青森地方気象台

【利用上の注意】

- 1 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり(予想)収量の比率である。
- 2 作柄表示地帯に包括される地域は以下のとおりである。

青森地帯 [青森市、東津軽郡]

津軽地帯 [弘前市、黒石市、五所川原市、西津軽郡、中津軽郡、南津軽郡、北津軽郡]

南部・下北地帯 [八戸市、十和田市、三沢市、むつ市、上北郡、下北郡、三戸郡]

- 3 稔実もみ調査における方法及び留意点は次のとおりである。

調査方法は、作況標本筆における調査箇所（ほ場の全畝数の中から3畝を任意抽出し、ほ場の対角線と交わった点を調査の基点とする。）で、「もみ数」を計測する10株（第1箇所と第3箇所各3株、第2箇所4株、の合計10株）から有効穂の最高穂と稈長の長さで下位から2番目の穂（平均稈長のおおむね1/2以下の穂は除く）について、稔実粒数と不稔実粒数を調査した。

具体的な稔・不稔の判定は、現地ほ場においてもみの中に入った粒が入っているかを触手で確認する方法であるが、判定が困難な場合には調査株に隣接する畝の同条件の穂を透視器等を用いて判定した。

本調査は、9月15日現在の概括的な不稔（稔実）状況を示すものである。また、本年産水稻の最終的な稔実結果については、刈取り・調製及び分析結果に基づくこととなる。

- 4 統計表において、「穂数の多少」「1穂当たりのもみ数」「全もみ数の多少」「登熟の良否」で用いた表示区分は、各指標の平年値に対する比率を次のとおりの区分で表したものである。

多少(良否)	多い(良)	やや多い(やや良)	平年並み	やや少ない(やや不良)	少ない(不良)
対平年比(%)	106以上	102～105	99～101	95～98	94以下

連絡先 東北農政局青森統計 情報センター
 生産流通消費統計課 生産統計第2係
 TEL 017 (734) 5513 内線303
 FAX 017 (775) 7971

この統計情報は青森統計 情報センターホームページ【<http://www.aomori.info.maff.go.jp>】でも御覧いただけます。